

策定方針

- ① 新たな時代の流れや社会情勢の変化を的確に捉えた総合計画
- ② 職員による手作りの総合計画
- ③ 市民や外部の声を反映した総合計画

多様な意識調査と職員参加システム

市民参加

- ◎ 市民アンケート調査 …P2
- ◎ 学生アンケート調査(中学・高校)…P3
- ◎ 市内事業者アンケート調査 …P4

職員参加

- ◎ 全職員アンケート調査 …P5
(壱岐市の課題や必要な施策をそれぞれの視点で考え提案する)
- ◎ 計画骨子を考える
若手職員プロジェクトチーム …P5
(係長級を対象に重点施策を検討する会議を編成)
- ◎ 全課による現行計画の評価 …P6
(現行計画の進捗状況評価)

外部参加

- ◎ 教員や民生委員・行革委員などへのアンケート調査 (現場サイドからみた課題や提案を把握)…P8
- ◎ パートナーシップ企業アンケート調査 …P8
(外部の視点からみた課題や提案を把握)

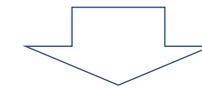
地域経済分析

(データに基づく施策立案:EBPM) …P9

ビックデータ解析

…P10

将来人口シミュレーション・予測 …P11



第4次壱岐市総合計画

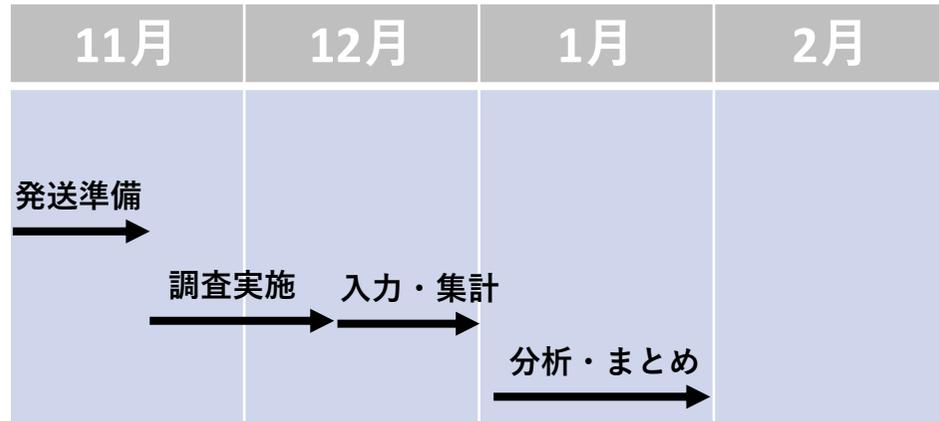
…P12



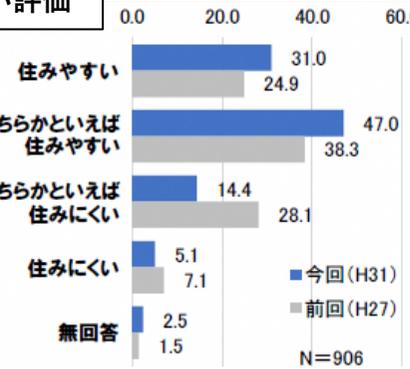
①市民アンケート調査

市民のまちづくりに対する評価や重要と感じていることなどを、前回調査との比較を含め詳細に把握します。

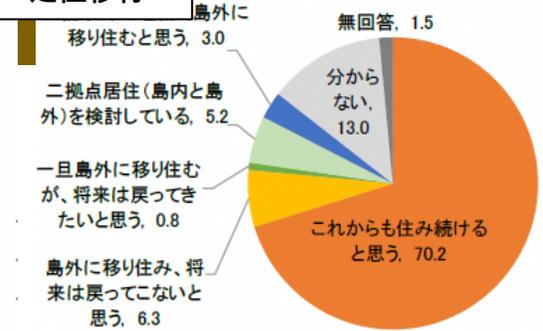
調査対象	市民2500人
調査方法	郵送・WEB回答
調査内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住まいの評価 ・ 将来の希望 ・ 定住意向 ・ 施策満足度（5段階評価） ・ 重点課題 ・ まちづくりへの参加意欲



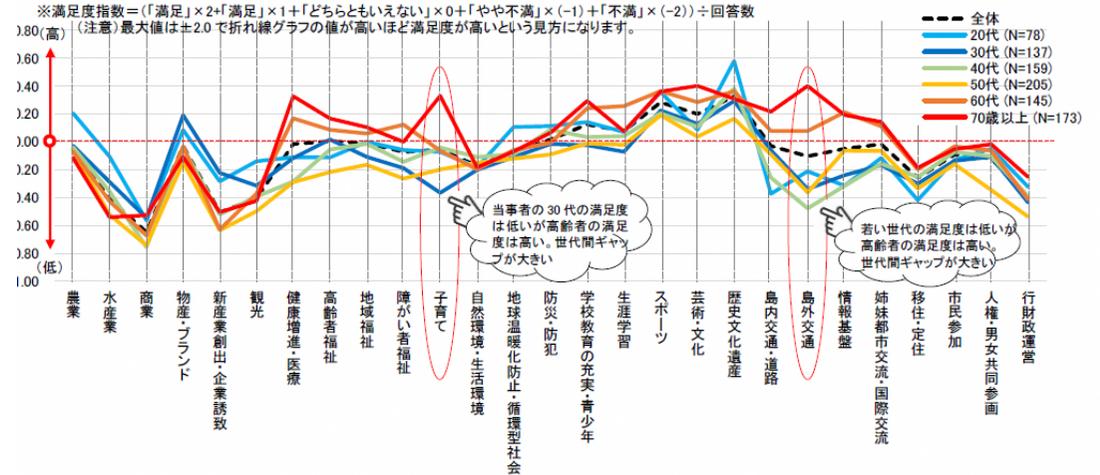
住まい評価



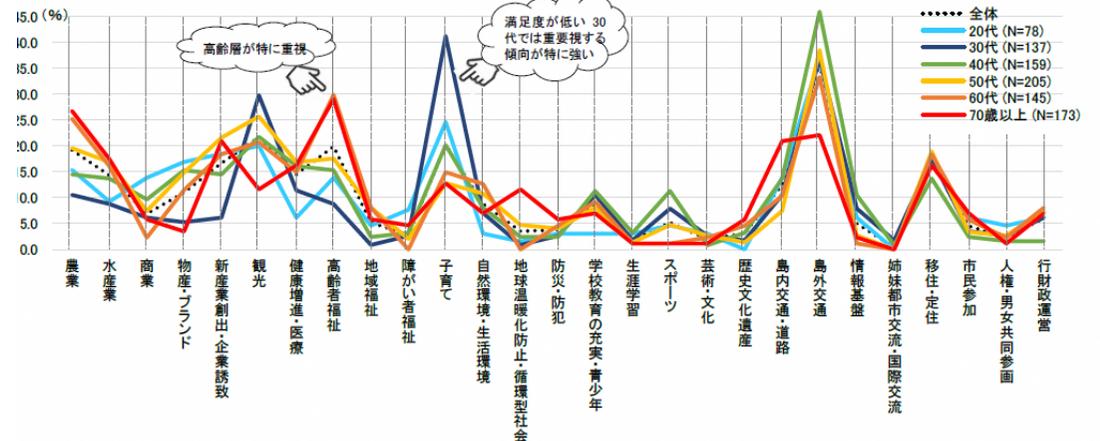
定住移行



満足度指数 商業、新産業創出・企業誘致、水産業、観光など、産業系施策の満足度が低い



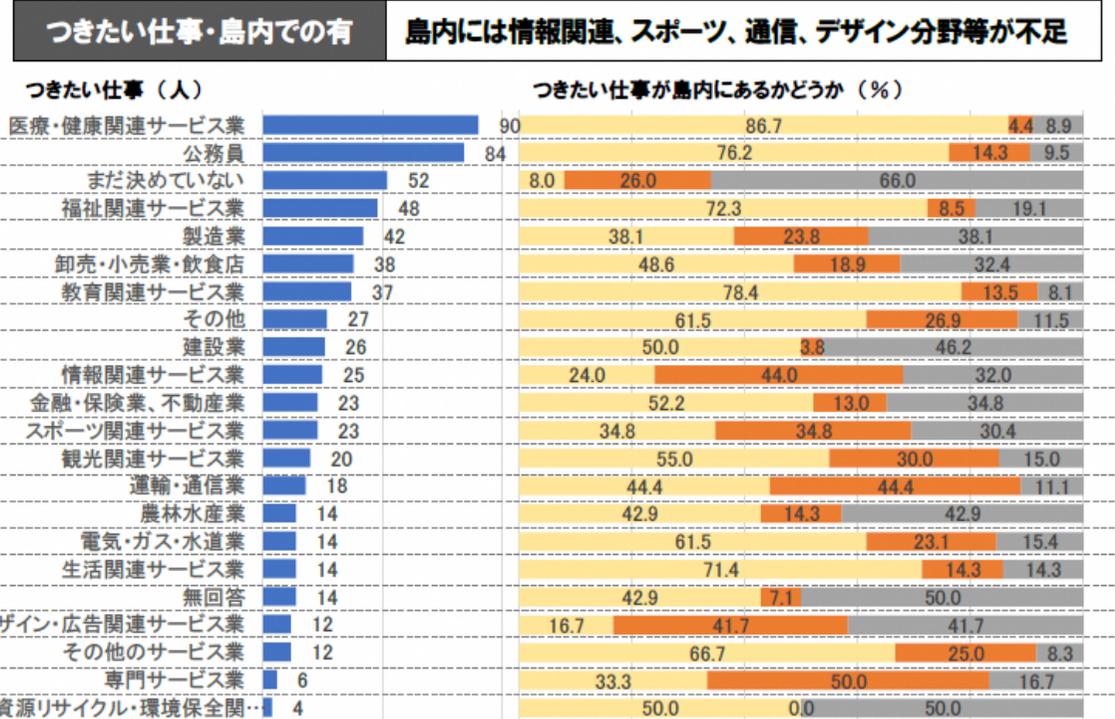
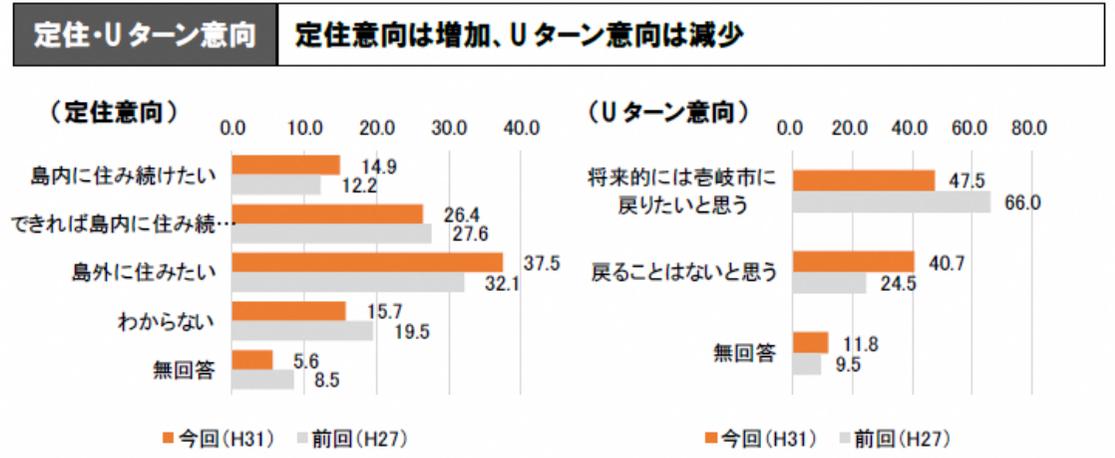
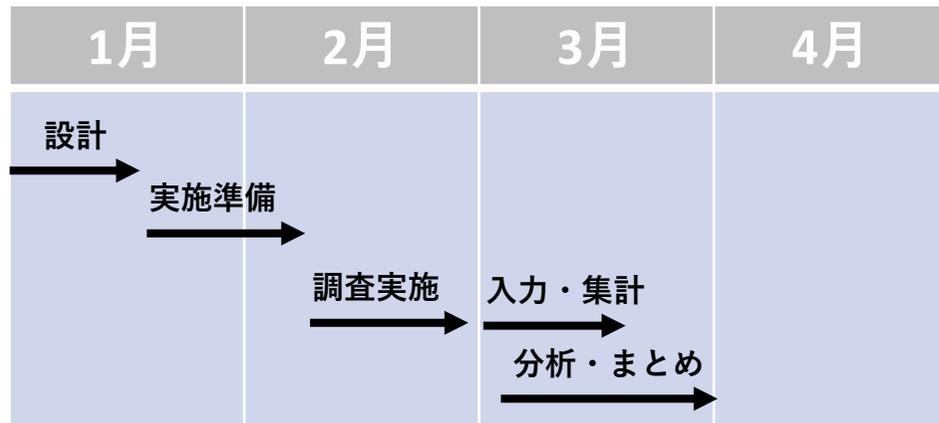
重要度 島外の交通手段、観光、子育て、高齢者福祉などを重要視



②学生アンケート調査(中学・高校)

若者に希望が持てるまちづくりのための基礎調査として、中学生・高校生の壱岐市に対する愛着や将来のUターン意向、付きたい仕事などを把握します。

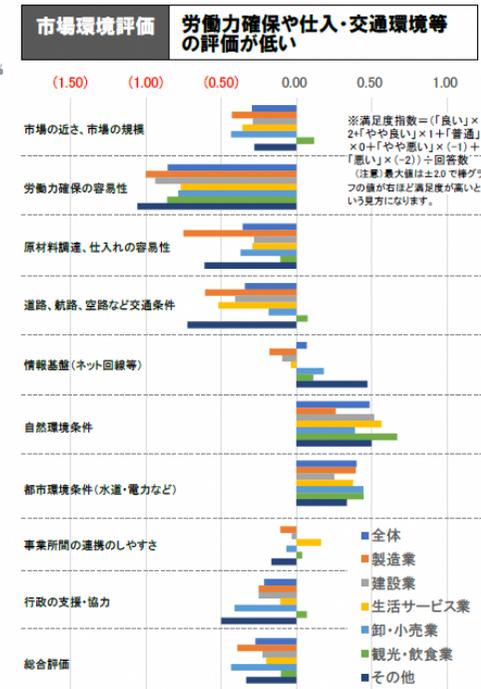
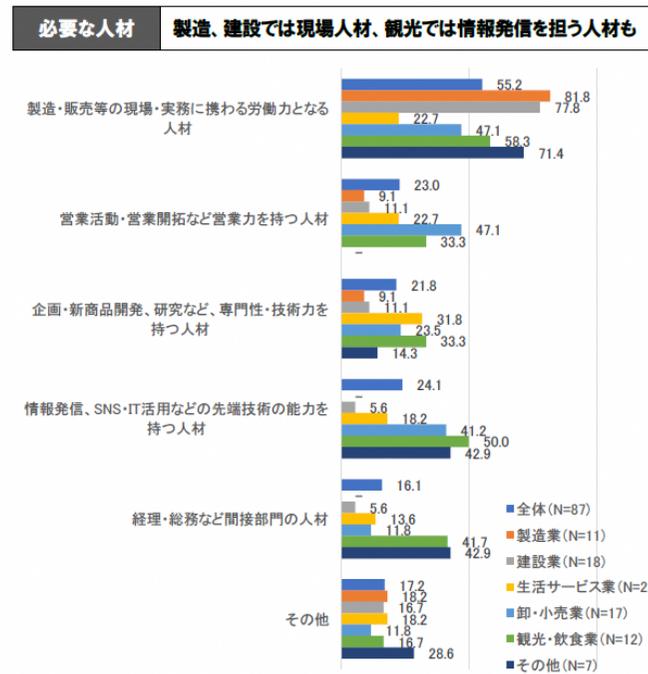
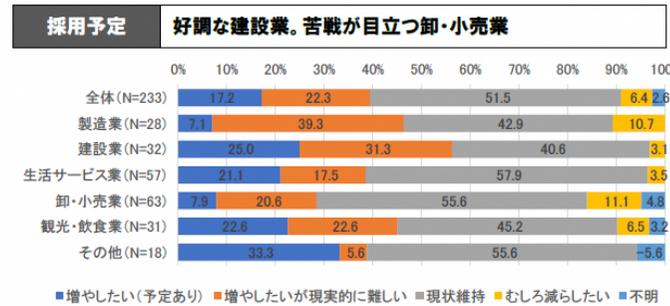
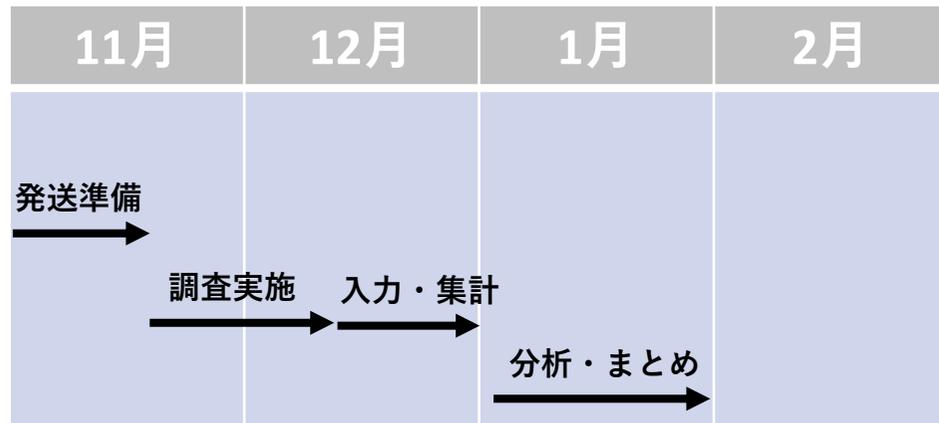
調査対象	中学生・高校生ともに3年生
調査方法	学校による配布回収 (WEB)
調査内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住まいの評価 ・ 壱岐市への愛着 ・ 定住意向・Uターン意向 ・ 付きたい仕事 ・ 仕事を選ぶ条件



③事業所アンケート調査

経済活性化のための基礎調査として、市内事業所に対し、コロナ禍からの回復状況や事業の課題、特に雇用や事業承継問題について把握します。

調査対象	商工会会員約900社
調査方法	郵送・WEB回答
調査内容	<p>(自経営について)</p> <ul style="list-style-type: none"> 最近の業績 後継者・事業承継問題 雇用問題 <p>(市政について)</p> <ul style="list-style-type: none"> まちづくりの評価 まちづくりの重要課題



④全職員アンケート調査

職員の手作りによる計画づくりの基礎調査として、所属を超えた職員の視点からみたまちづくりの課題や分野別施策の評価、重要度などの把握、新規事業提案などを行います。

調査対象	全職員
調査方法	WEB回答
調査内容	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりの課題 ・分野別施策の評価 ・分野別重要度 ・新規事業提案など



⑤若手職員プロジェクトチーム

将来を担う係長級の若手職員20名程度の参加により、総合計画の骨子づくりを行います。

チーム編成イメージ(現行計画目標で設定)

【経済チーム】
仕事(目標1)
人の流れ(目標5)

【ひとチーム】
子育て・教育
(目標2)
コミュニティ
(目標3)

【まちチーム】
自然・文化・
基盤・SDGs
(目標4)

各分野の問題・課題分析

重点事業の設定

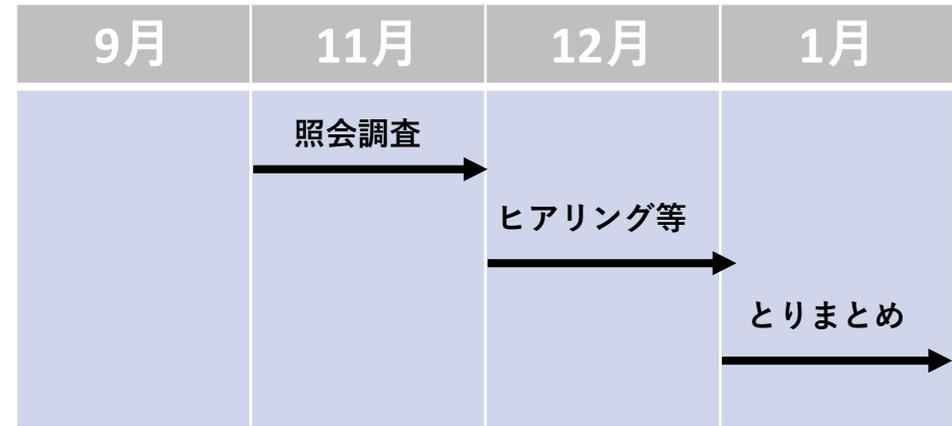
現行計画の施策体系の見直し



⑥全課による現行計画の評価

全関係課により、現行計画の評価を行います。

調査対象	全課
調査方法	各課照会

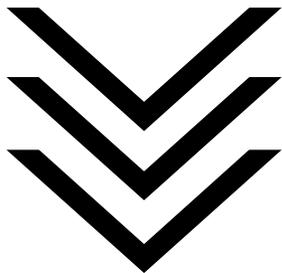


評価方法

(ステップ1)

施策体系の評価・見直し

現行計画の施策体系について、現状の課題とのギャップや違和感がないか検証します



ステップ2へ

◎政策体系確認 ※青色は現行計画を踏襲（表現変更含む）修正がある場合は、直接見え消しで表記してください。

(提案体系)

(備考：新規設定理由など)

1. 生産基盤の整備

①圃場整備等の推進

②農村生活環境基盤の整備

③多面的機能の維持・発揮

④有害鳥獣対策の強化

※ヒアリング等ではご指摘ありませんでしたが、香岐・対馬地域鳥獣被害防止計画を踏まえ施策として位置づけました。

2. 経営力の強化

①担い手育成・確保

②農業経営の安定化支援

③農地流動化・耕作放棄地対策

④高収益作物の開発

※ヒアリングにおいて今後の重点課題とご意見を頂きましたので新規施策として位置づけました。

⑤スマート農業の推進

※ヒアリングにおいて今後の重点課題とご意見を頂きましたので新規施策として位置づけました。

3. 流通強化・ブランド化

①ブランド化の推進

②輸送コスト低廉化

4. 農村集落活性化

①加工品開発の支援

②グリーンツーリズムの推進

③地産地消の推進

※ヒアリング等ではご指摘ありませんでしたが、民泊を含め農村集落の新たな活性化の可能性があるので追加しました。

⑥全課による現行計画の評価

評価方法
(ステップ2)
施策内容の評価・見直し

具体的な施策の記載内容について、4年間振り返っての課題を分析しつつ、新たな表現への見直しを行います。

区分	現行計画		各課照会調査結果		次期計画（施策の表題）	施策内容修正案
	施策	概要	課題	施策の方向性		
総計	圃場整備の推進	水田圃場整備を推進するとともに、畑地帯においては、立地条件に応じた区画整理を推進します。	土地改良財産を維持管理する土地改良区や担い手への情報提供。	農地中間管理機構関連農地整備事業として H31 年度より木田地区を新規事業申請。8 年間、A=23.3 ha。	①圃場整備等の推進	●
総計	農村生活環境基盤の整備	農村生活環境整備のため、農道、林道、排水路等地域の実態にあった整備などを推進します。	川若松線の用地未解決のため、事業着手できません。		②農村生活環境基盤の整備	●
総計	日本型直接支払制度	農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮のための、地域活動や営農活動に対して支援を行い、地域資源の適切な保全管理を図るとともに更なる普及と対策を図ります。	特になし	現行と同様の方針で継続	③多面的機能の維持・発揮	●
新規					④有害鳥獣対策の強化	●

現行計画の記載内容

4年間を振り返っての課題を記載します。

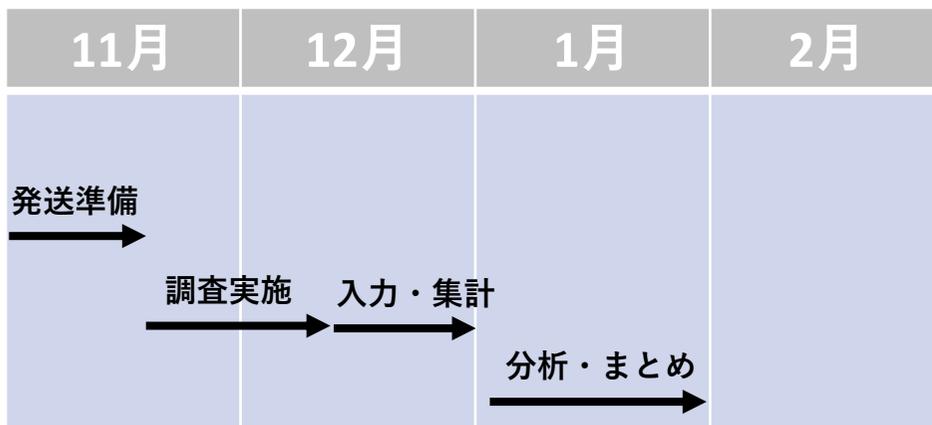
次期総合計画へ記載する新たな施策内容を記載します。

最終的に事務局で調整

⑦ 教員や医療・介護職スタッフ、民生委員・行革委員などへのアンケート調査

現場サイドの意見を踏まえた計画づくりの基礎資料として、教員や医療・介護職スタッフ、民生委員・外部評価委員へのアンケート調査を実施します。

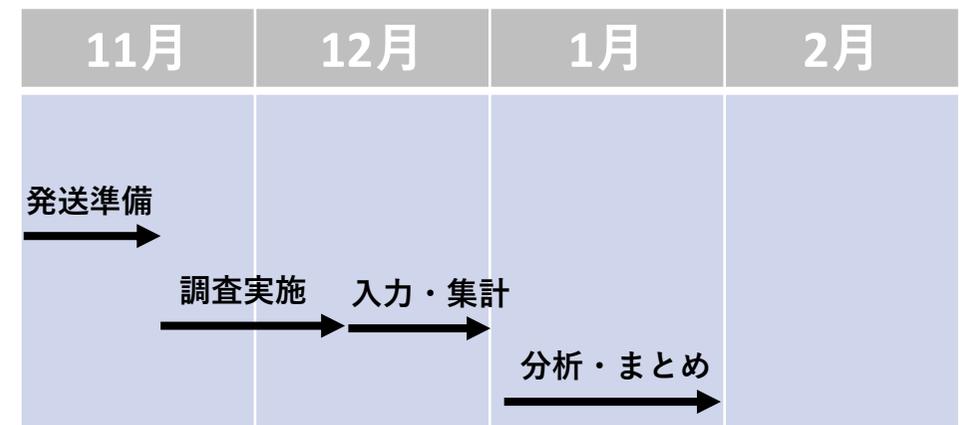
調査対象	教員、医療・介護職スタッフ、民生委員、外部評価委員等
調査方法	郵送・WEB回答
調査内容	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりの課題 ・分野別施策の評価 ・分野別重要度 ・新規事業提案など



⑧ パートナーシップ企業アンケート調査

パートナーシップ協定を締結している企業の視点からみた壱岐市の評価と課題や、企業と連携したまちづくりの可能性を把握します。

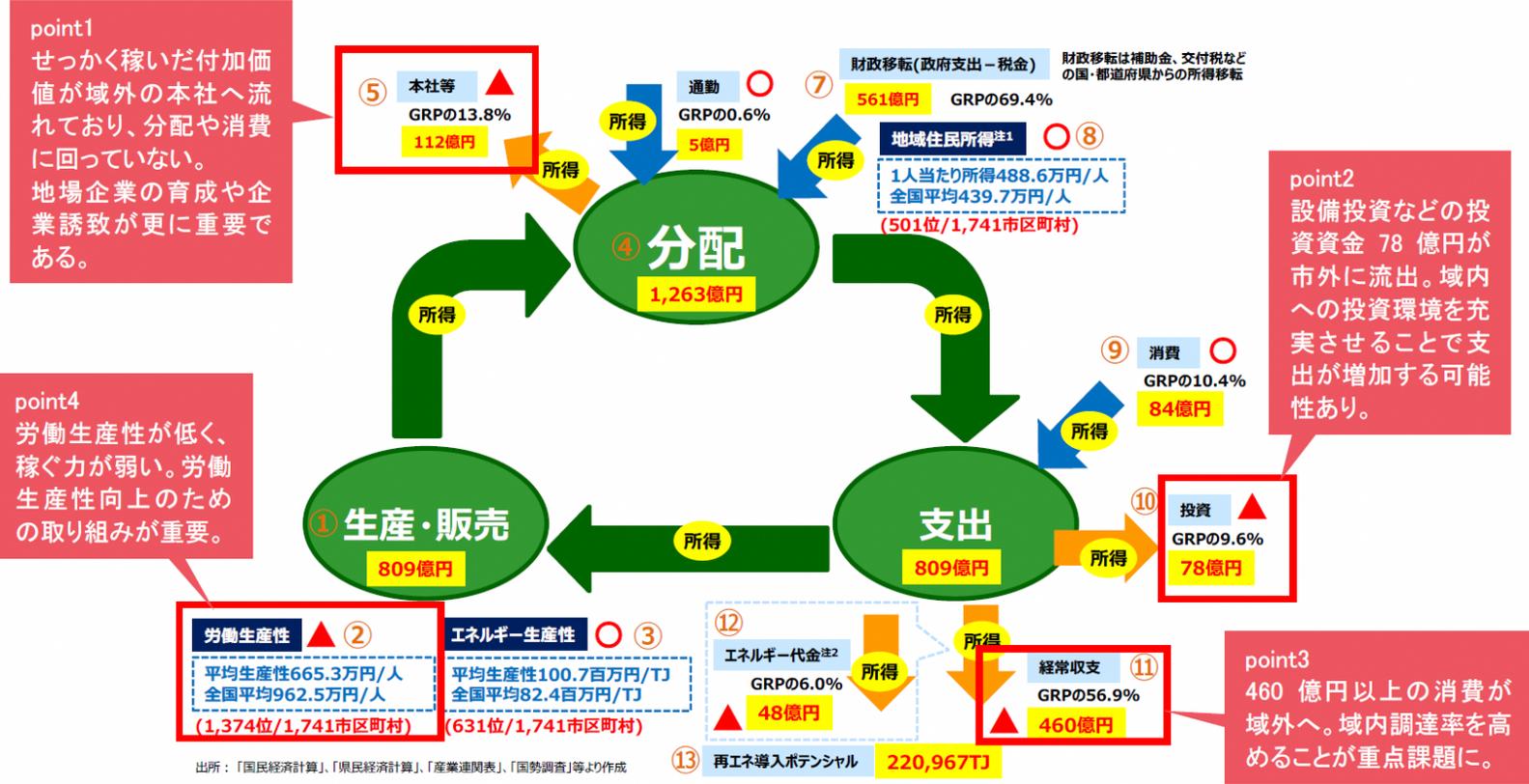
調査対象	パートナーシップ企業
調査方法	メール・WEB回答
調査内容	<ul style="list-style-type: none"> ・壱岐市の評価 (他都市との違いを強調) ・課題 ・今後の連携可能性



地域経済分析

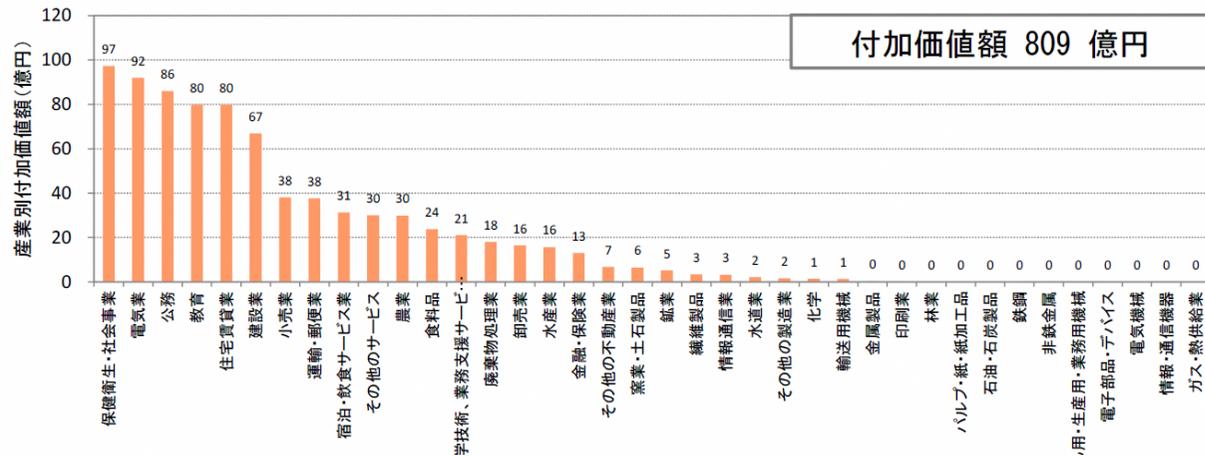
～稼ぐ力を高めつつ、地域にお金を回す仕組みを検討する～

産業連関表や経済センサスなどのデータを駆使し、マクロ経済の視点から、壱岐市の経済構造の課題を分析します。



(産業別付加価値額)

付加価値額が最も大きい産業は保健衛生・社会事業で 97 億円であり、次いで電気業、公務、教育の付加価値額が大きくなっています。



ビックデータ解析

～人流や検索行動分析により
交流人口拡大の糸口を見つける～

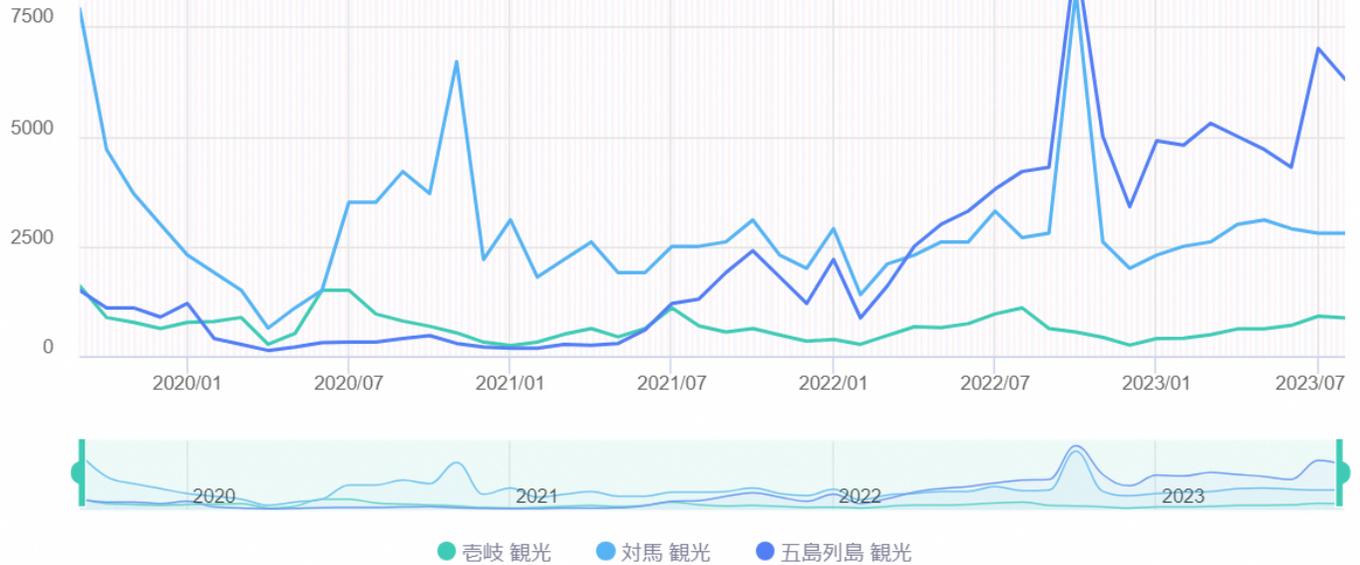
携帯電話の位置情報や検索エンジンでの検索結果などを活用し、香岐に対する話題量や交流人口の動態を詳細に分析します。

地域別割合 (i)

検索ボリューム ▾ の高い順で色分け



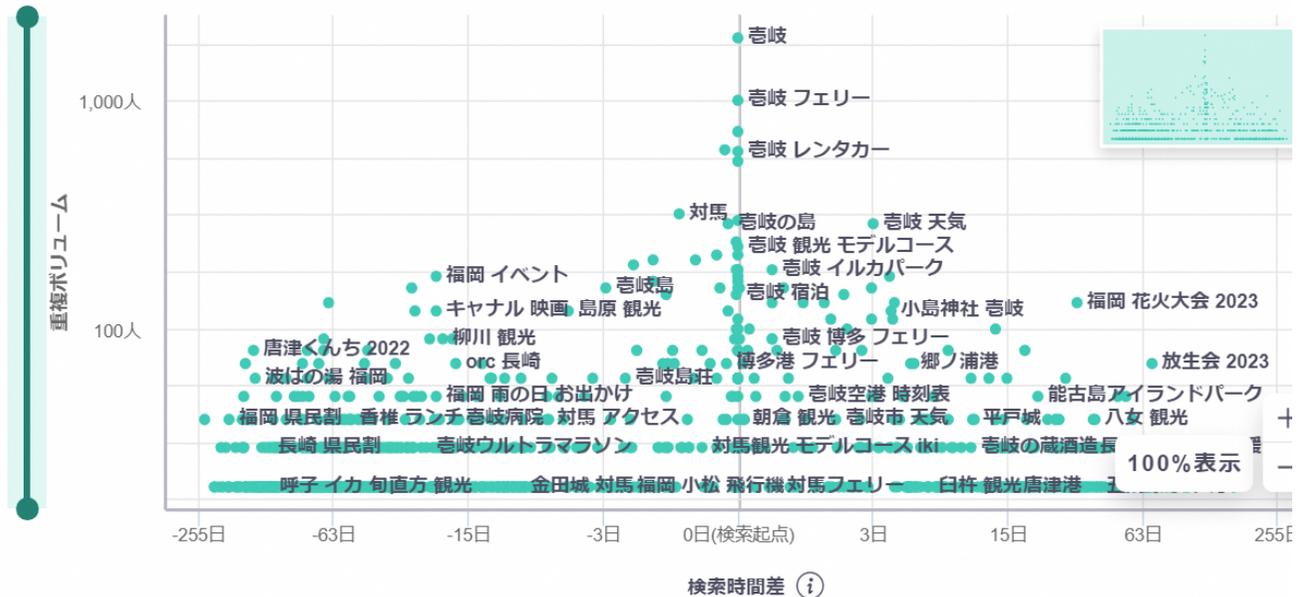
「香岐 観光」の検索ボリューム(対馬、五島列島との比較)



「香岐 観光」の時系列検索ボリューム

表示設定 指定中の条件: 重複ボリューム / 表示: 1000件

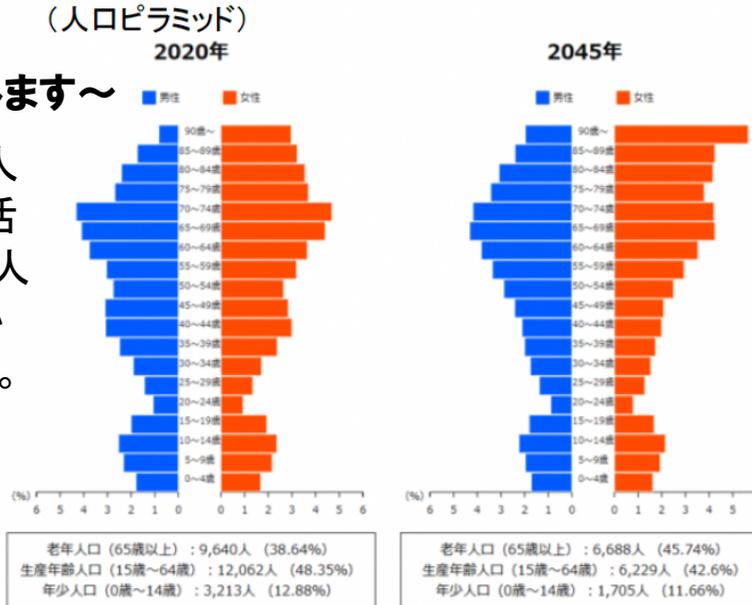
指標変更について (i)



人口動態分析・予測

～人口ビジョンとのギャップを明らかに将来人口を再予測します～

国勢調査や住民基本台帳、人口問題研究所推計値などを活用し、本市の人口動態・移動人口の分析。流出要因を明らかにし必要な対策を検討します。

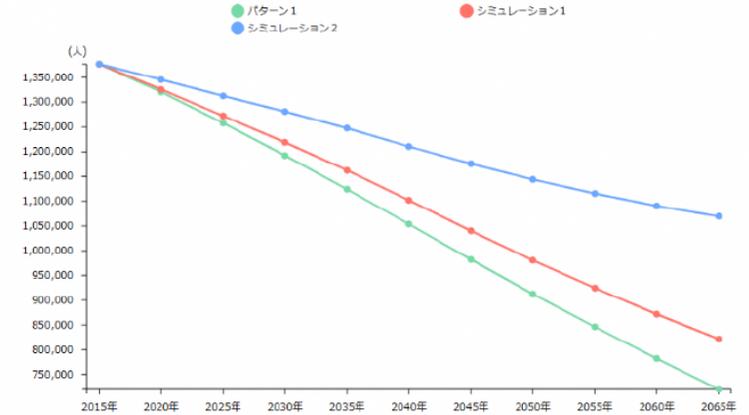


(推計人口と実績比較)

男	2020年	(実績)
総数	11798	11,837
0～4歳	515	450
5～9歳	576	580
10～14歳	638	631
15～19歳	472	500
20～24歳	236	268
25～29歳	365	359
30～34歳	513	476
35～39歳	626	622
40～44歳	759	769
45～49歳	772	773
50～54歳	693	688
55～59歳	757	758
60～64歳	927	941
65～69歳	1002	1,024
70～74歳	1101	1,077
75～79歳	686	670
80～84歳	565	602
85～89歳	373	434
90歳～	222	206

女	2020年	(実績)
総数	13066	13,111
0～4歳	490	418
5～9歳	546	542
10～14歳	583	592
15～19歳	470	484
20～24歳	210	234
25～29歳	352	336
30～34歳	470	430
35～39歳	579	594
40～44歳	719	748
45～49歳	701	711
50～54歳	654	661
55～59歳	767	799
60～64歳	928	911
65～69歳	1084	1,099
70～74歳	1170	1,170
75～79歳	912	922
80～84歳	877	888
85～89歳	855	807
90歳～	699	741

(将来人口)



【出典】 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」に基づきまち・ひと・しごと創成本部作成

【注記】

パターン1：全国の移動率が今後一定水準維持すると仮定した推計（社人推計推計値）

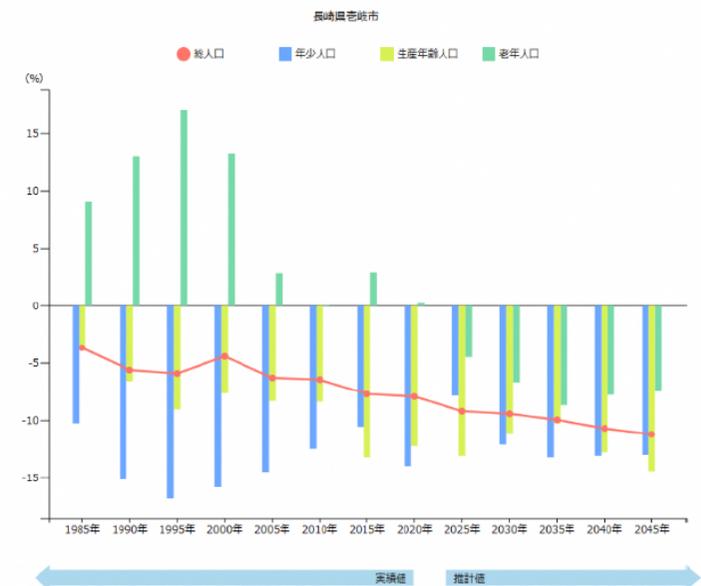
シミュレーション1：合計特出生産率が人口置換水準（人口を長期的に一定に保てる水準の2.1）まで上昇したときのシミュレーション

シミュレーション2：合計特出生産率が人口置換水準（人口を長期的に一定に保てる水準の2.1）まで上昇し、かつ人口移動が均等化したとした（移動がゼロとなった）場合のシミュレーション。

【その他の留意点】

人口問題研究所の試算値と実績との乖離より本市の人口動態を分析

人口増減



第4次吉岐市総合計画策定フロー(案)

令和5年10月

策定方針の決定

(1) 上位・関連計画等の整理

(4) トップインタビューの実施

(2) 社会・経済状況調査
 ① 人口動態
 ② 経済情勢
 ③ ビックデータ解析

(5) 各種アンケート調査
 ① 市民アンケート
 ② 学生アンケート
 ③ 事業所アンケート
 ④ 職員アンケート
 ⑤ 外部関係者アンケート

(3) 現計画の進捗状況調査

若手職員プロジェクトチーム

概ね令和6年1月ごろ

(6) 現況まとめ・課題分析

(7) 計画骨子の検討
 (重点事業、施策体系、スローガンなど)

総合計画審議会

概ね令和6年2月ごろ

(8) 計画策定
 ① 基本計画素案の作成
 ② 人口ビジョン作成

第1回：R5年10月
 第2回：R6年*月
 第3回：R6年*月
 第4回：R6年*月
 第5回：R6年*月

概ね令和6年6月ごろ

素案完成